

令和6年度 天沼中学校 経営方針

杉並区立天沼中学校

校長 池田 和幸

杉並区教育ビジョン2022

「みんなのしあわせを創る杉並の教育」

1 天沼中学校教育目標

「自主」 「自律」 「共生」

2 目指す生徒像

・自らの道を切り拓き、自他のしあわせを大切にする生徒

(1) 主体的に考え判断し、責任をもって行動できる生徒（自主）

(2) 自分自身を大切にし、自信や誇りをもって生きる生徒（自律）

(3) 自他の存在を尊重し、家族や友人、地域を大切にする生徒（共生）

3 目指す学校像

・「教育の当事者として」の意識をもち、一人ひとりの生徒の存在を大切にし、保護者・地域と協働して生徒を育てる学校

(1) 徳・知・体の調和のとれた生徒を育成する学校

(2) 好ましい学習習慣の確立と生徒の人格形成を目指す学校

(3) 教職員が日々研鑽し、生徒一人ひとりを大切に指導する学校

(4) 自他の存在を尊重し、人との関わりを大切にする学校

(5) 保護者・地域に信頼され、愛される学校

4 教職員の行動指針

・天沼中学校に通うすべての生徒のために

・「みんなのしあわせ」を

・生徒と共に学び続ける

5 「3 目指す学校像」を実現させるため

(1) 「徳・知・体の調和のとれた生徒を育成する学校」について

徳育における取組

ア 道徳の時間充実…教科としての意識を高め、毎週確実な実施を行う。

イ 道徳教育の推進…全教育活動で取り組むべきものである道徳教育を意識して各教科、領域の指導を行い、全体計画の見直しを行う。

ウ 人や集団への積極的なかわり…特別活動、特に学級活動を充実させ、人間関係作りの機会を多く設定する。ボランティア活動や地域貢献の場において、人とのかわりと働きかけで、思いやりと感謝の心、自己有用感を育成。

エ いのちを大切にす豊かな心の育成…かけがえのない存在である自己をみつめさ

せ、自尊感情を高める。差別やいじめをなくし、心豊かな生徒を育成
オ 多様性をお互いに認める心の育成…多様な文化や多様な考え方を知ることができ
るような活動体験。多様性を認め合う雰囲気醸成

知育における主な取組

- ア 基礎・基本の定着…家庭学習の定着、学校支援本部と連携した、各種検定や天沼倶楽部での放課後学習。
- イ 学力の向上…各種調査の分析から生徒と教職員の課題を見出し、授業実践及び授業研究により、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図り、指導の工夫と改善。
- ウ 主体的な学習態度の育成…主体的に学習に取り組む態度の観点の適切な評価の工夫と見通しをもった指導計画の作成と形成的評価の工夫。
- エ 指導と評価の一体化を推進した授業改善…授業のねらいを明確し、適切な評価をもとに毎時間の授業を改善する。
- オ 小学校との連携、高大接続を意識した学力の定着…AKAの充実、高大接続を見据えた思考力・判断力・表現力等を重視した指導
- カ ICT機器の利活用…ICT機器ならではの利点を生かし、積極的に授業内に取り入れ、生徒の学力向上につなげていく。

体育における取組

- ア 保健体育科の授業改善…体力テストの分析と重点的な課題の見出し。専門家等との直接交流を通じて、運動と健康への学びを深める。
- イ 体育的行事の充実…連帯感や団結力を養い、集団の一員としての責任が果たせるようあきらめない心と粘り強く取り組む態度を育成
- ウ 生涯スポーツと地域移行を見据えた部活動の運営…校務の効率化により指導時間を確保する。必要に応じ外部指導員や地域関係者等を積極的に導入。運動に親しむ雰囲気醸成する。
- エ 食育や食物アレルギー対応の充実…安全な給食を目指し、食物アレルギー対策について組織で対応する。
- オ 健康への興味・関心の高揚と実践的努力…保健体育や保健指導により健康的な生活について関心をもたせ、疾病や事故のない安全・安心な生活を営む態度を養う。

(2) 「好ましい学習習慣の確立と生徒の人格形成を目指す」について

- ① 小中一貫教育の充実を図る。小中合同研修や交流活動を通じ「沓掛小」「天沼小」との連携を密にし、中一ギャップを解消し円滑な義務教育9カ年の連続性を確立する。
- ② キャリア教育を推進し、3か年の体系的な進路計画のもと、自分の良さや特徴に気づかせるとともに、望ましい勤労観や職業観を育て、主体的に自らの進路を切り拓く生徒を育成する。
- ③ 変化の激しい社会でも自ら考え生きる力を発揮できるよう、全教育活動においてSDGsを意識した取り組みを行い、道徳教育、キャリア教育の関連を高める。
- ④ 毅然としながらも温かい指導を行い、規範意識の醸成と望ましい生徒の集団を形成させる。反社会的な行為そのものに対しては毅然と指導する。そのうえで、教育相談的な指導を行い、生徒の心情や状況に対して温かい指導を行う。

(3) 「教職員が日々研鑽し、生徒一人ひとりを大切に指導する学校」について

- ① 特別支援教育を充実させる。特別支援教室「天沼ほっとスペース」の効果的な活用・運用と、特別支援教室巡回指導教員等との連携を充実させ、個に応じた指導体制のさらなる充実を図る。あわせて、専門委員が参加する校内委員会と外部諸機関との連携

により特別支援教育の充実を図る。

- ② 専門的な指導を実践できるよう、教育公務員としての自覚を深め、個々の経験や経歴を通じ高めた専門性を発揮できる指導が行ない、教職員がお互いに研鑽できる雰囲気醸成する。
- ③ 学びの多様化を推進する。不登校傾向や不登校の生徒が、義務教育終了後に社会とのつながりをつくることのできるよう、区や都の施策を活用しながら、学校・保護者・関係諸機関・地域と連携し、学校と生徒のつながりをつくれるようにする。
- ④ ICT 機器を活用した生徒の教育活動を発展させ、充実させる。小中・中高の ICT 機器の活用の連続性についても考慮する。併せて ICT 機器を活用した教職員の事務作業効率化を行う。
- ⑤ 働き方改革を推進する。学校閉庁日や部活動休日の確保および校務の効率化を図り、教職員の多忙感を解消し、働きやすい職場を目指す。また、教職員の働き方の現状について地域・保護者への啓発を行い、働き方改革への理解を促す。

(4) 「自他の存在を尊重し、人との関わりを大切にする学校」について

- ① 豊かな感性をもち、自他の存在を大切にする…生徒の人間性を高める指導の資質向上のために、教職員自らがお互いの健康と安全に配慮できるよう、感性と人権感覚を高められるようなコミュニティーを形成できるようにする。
- ② 特別活動の充実…生徒会活動、学校行事、学級活動を充実させ、生徒が自ら考えて行動する場面を意図的に多く設け、主体的に自己実現を図ろうとする態度や意欲を育てることで、よりよい学習環境の創出と生徒の人格形成を目指す。
- ③ 教育相談の充実…日常の教育活動でのコミュニケーションを基盤としつつ、おしゃべりウィーク、ウェブ Q&A、各種アンケートを活用し、学校（生徒と教職員）・地域（関係機関や学校関係者）・保護者の 3 者がお互いの困り感を開示、共有できる関係を深める。さらに、共有できた困り感に対する解決策を関係者で見出し、実行できる体制を強固にする。
- ④ 組織人としての自覚をもち、生徒の育成に主体的にかかわろうとする意識が高められるような職員集団を形成するために、教職員が有機的に連携し、組織的に教育活動を行えるようにする。

(5) 「保護者・地域に信頼され、愛される学校」について

- ① 本校の特色である「ことだま百選」「防災教育」「ボランティア活動」「伝統文化理解教育」の充実を進めながら、地域人材や地域の関係団体の幅広い活用や保護者の協力により豊かで多様な教育活動を生徒に提供するとともに、生徒の地域への帰属意識を高める。さらに、生徒の地域への帰属意識を高めることで、保護者、地域に信頼され、愛される学校の基盤を構築する。
- ② 生徒の自尊感情・自己肯定感・自己有用感を高めるためボランティアマインドの醸成を継続的・計画的に行う。また、地域が子どもと直接関わり、地域が子どもを育成する契機を意図的につくることで、生徒の多様な活躍の場をつくる。加えて、ボランティアマインドを醸成することにより、保護者、地域に信頼され、愛される学校の基盤を構築する。
- ③ 教育公務員としての自覚と誇りを高めるために、お互いが快く職務遂行できるような雰囲気醸成し、教職員の心理的安全性を確保する。心理的安全性の確保を通じ、服事故の未然防止とするとともに、充実した教育活動の礎とし保護者・地域に信頼させる教職員集団を目指す。